

## 第3学年 国語科学習指導案

指導者 廣幡 佳菜子

- 1 日 時 平成27年5月26日(火) 5校時
- 2 学年・学級 3年1組(男子15名 女子14名 計29名)
- 3 単元名 声に出して楽しもう「俳句を楽しもう」

### 4 単元の目標

- 言葉を手がかりに情景を想像し、五・七・五の調子を楽しみ声に出して読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- 選んだ俳句の情景を伝えることができる。自分の考えと、友だちの考えを比べながら聴くことができる。(話すこと・聴くこと)
- 自分の考えを書くことができる。(書くこと)
- 五・七・五の調子や文語の響きに親しみながら、音読することができる。(読むこと)
- 言葉を手がかりに情景を想像したり、俳句のリズムや文語の調子に親しんだりすることができる。(言語事項)

### 5 単元について

本学級は、活発で人懐っこい児童が多い。学習中は意欲的に取り組める児童もいるが、中には一斉指導では指示が通りにくく、個別に声かけが必要な児童も数名いる。また、全体の中で自分の考えを発言できる児童も限られている。そこで、4月からペアトークやトリプルトークを行い、少人数の中で自分の考えを発言し、友だちの意見を聴けるように取り組んできた。

児童は、1、2年生の学習で季節や行事の俳句や川柳を作った経験があり、俳句と出会うのは初めてではない。しかし、昔の言葉(文語)と触れ合う機会は今まで少なく、この学習で初めて出会う児童も多い。

本教材は、学習指導要領の「伝統的な言語文化に関する事項」の系統に対応したものである。日本の伝統的な文学作品の中でも、特に俳句は現代に至るまで人々の生活に根づき親しまれてきたものである。俳句は五・七・五という短い文の中から、季節や風情、作者が句に込めた思いなどを思い浮かべることができる。また、繰り返し音読をすることによって、五七調の国語の美しい響きやリズムを感じ、リズム感を養うことができる。そうすることによって、俳句の世界を想像したり、短い言葉の中からイメージや情景を広げたりして感性を磨くことができると思われる。初めて文語調の文章にふれる児童も多いので、作品の選定にあたっては、児童に身近な素材で、易しくわかりやすい言葉づかいの俳句、イメージのわきやすい俳句を取り上げるようにした。

指導にあたっては、繰り返し声に出して俳句を読ませていきたい。第1次の1時では、繰り返し音読することで、五・七・五という言葉のリズムを感じさせる。それとあわせて季語や切れ字などの俳句のきまりについても学習させる。そして、五・七・五という短い文の中にえがかれた情景を、言葉を手がかりに思い浮かべさせることで、その俳句の世界に浸らせたい。次に、提示した俳句の中から、自分が気に入った俳句を選ばせる。その俳句から思い浮かべた情景や、気に入った理由を書き込みシートに書かせ、伝えるための手がかりとさせたい。書き込みシートには、例を示し、書くことが苦手な児童も書きやすいものにしたい。第1次の2時（本時）では、その書き込みシートをもとに意見交流を進めたい。まず、小グループで意見交流を行い、自分の考えや友達の考えを交流させたい。意見交流の時には、友だちの意見をメモしながら聴かせ、自分の考えと比べる一助とさせたい。次に、クラス全体で意見の交流を行いたい。友だちの感じ方に触れ、様々な考えや意見を聴き合うことで、自分のイメージを広げ、深めることをねらいたい。俳句への興味やとらえ方に広がりが出ることを期待している。

第2次では、「いろは歌」の大義を説明し、昔の五十音図のようなものと紹介し、歴史的仮名遣いの「ゐ」「ゑ」にも触れたい。七・五調のリズムを感じさせながら、繰り返し音読させ、文語の調子に親しませたい。そして、気に入った俳句を書いたしおり作りを行い日常的に俳句に親しめるようにしたい。

## 6 単元における評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聴くこと	書くこと	読むこと	言語事項
・五・七・五の調子を楽しみ、声に出して読もうとしている。	・俳句の言葉から情景を想像し、自分が感じたことを伝えている。 ・友だちの考えを自分の考えと比べながら聴いている。	・選んだ俳句の情景を想像し、自分の考えを書いていく。	・五・七・五のリズムや語感に気をつけて読んでいる。	・言葉をもとに情景を想像している。 ・文語の調子に親しんでいる。

## 7 指導計画（全3時間）

### 第1次 俳句のリズムを感じ取りながら音読し、思い浮かべた情景を伝え合おう〔2時間〕

- ・繰り返し音読することで五・七調のリズムに慣れ、俳句のきまりや特徴を知る。  
気に入った俳句を選び、言葉から思い浮かべた情景を書き込みシートに書く。

書き込み (1)

- ・思い浮かべた情景について小グループ、クラスで意見を交流する。

交流 再考 (1) 本時

## 第2次 文語の調子に親しもう〔1時間〕

・「いろは歌」を声に出して読み、文語の調子を味わう。

お気に入りの俳句を書いたしおりを作る。

(1)

### 8 本時の目標

- ・五・七・五のリズムを感じて音読することができる。
- ・選んだ俳句の情景を伝え合い、自分の考えを広げることができる。

### 9 本時の授業展開

学習内容	指導上の留意点	評価基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習をふりかえる。</li> <li>・本時のめあてを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句のきまりや特徴を確認する。(五・七・五で構成されている。季語が入っている。文語がつかわれている。)</li> </ul>	
えらんだ俳句の情景を伝え合おう		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句を提示し、音読する。</li> <li>・小グループで意見を交流する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流</span></li> <li>・クラスで意見を交流する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流</span></li> <li>・本時の学習を振り返る。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">再考</span></li> <li>・全員で俳句を音読し、味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を活かして、五・七・五のリズムを意識させて音読させる。</li> <li>・自分の考えと友だちの考えを比較しながら聴くように声かけする。</li> <li>・メモをとらせる。</li> <li>・情景を思い浮かべながら、聞くように声かけをする。</li> <li>・それぞれの児童が、言葉を手がかりに広げた情景を大切にしながら本時の学習を振り返らせる。</li> <li>・情景を想像しながら音読するように声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五・七・五のリズムを感じて音読している。</li> <li>・意見交流の中で、自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・友だちの考えと比べながら聴き、メモすることができる。</li> <li>・工夫して音読することができる。</li> </ul>

## 10 板書計画

雪とけて村いっばいの子もかな	春の海終日のたりかな	児童から出た意見を書く	閑かさや岩にしみ入る蟬の声	えらんだ俳句の情景を伝え合おう	俳句を楽しもう 菜の花や月は東に日は西に (俳句のきまり) ・五、七、五の十七音 ・季語 ・切れ字「や」「かな」など
小林 一茶	与謝 蕪村		松尾 芭蕉		与謝 蕪村

## 11 成果と課題

### 【成果】

- ・書き込みシートに書くことによって、普段なかなか意見が言いにくい児童も、自分の意見をまとめて交流することができた。
- ・シートに書くことで、自分の考えと友だちの考えが比べやすくなった。
- ・シートに友だちの意見をメモするところがあったので、聴こうとする姿が見られた。
- ・同じ俳句を選んだ小グループで交流したことで、意見の比較がしやすかった。
- ・意見交流によって、言葉の意味が分かったり自分と違う意見があったりと、新しい発見ができた児童もいた。
- ・写真を用意したことで、俳句の世界をイメージ化させることができた。

### 【課題】

- ・書き込みシートは書く量が多かったため、子どもたちは大変そうだった。意見交流の時間なのに、書くことに時間を使いすぎるようになってしまった。
- ・シート「④友だちの意見をメモしよう」は意見を聴いてメモできた児童は少なく、友だちの書いた文を見て写させてもらっている児童が多かった。聞きながらメモをとるという作業は難しく、日々の積み重ねが必要だと感じた。
- ・シートに、まず選んだ俳句を書いて、その俳句に直接線を引き、どの言葉からどんなイメージをもったのか、書きこみができるようなものの方がよかったように思う。その方が児童から、いろいろな意見が出たのかもしれない。

- ・シート⑤の(自分の意見とちがう所)と(新しく気づいた所)は区別しにくく、1つにした方がよかった。
- ・自分たちがワークに書いたことを伝えるだけにとどまっていた児童も多くいたので、もっと疑問に思ったことを質問し合える交流の場になればよかった。
- ・再考する場面での発表が少なく、深めることができなかった。児童から出てきた意見やつぶやきを、私がうまく投げかけたり、つなげたりできなかった。
- ・児童にとって難しい俳句だったが、児童の今までの経験・体験と少しでも結び付けられると、もっと深められたのかもしれない。